

別紙 1

第 18 回精神保健福祉士国家試験の合格基準及び正答について

1 合格基準

次の 2 つの条件を満たした者を合格者とする。

- (1) ア 総得点 163 点に対し、得点 86 点以上の者（総得点の 60% 程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は 1 問 1 点である。）。

イ 試験科目の一部免除を受けた受験者
(精神保健福祉士法施行規則第 6 条)

総得点 80 点に対し、得点 42 点以上の者（総得点の 60% 程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は 1 問 1 点である。）。

- (2) (1) のア又はイを満たした者のうち、(1) のアに該当する者にあつては①から⑯の 16 科目群、イに該当する者にあつては①から⑤の 5 科目群すべてにおいて得点があつた者。

①精神疾患とその治療 ②精神保健の課題と支援 ③精神保健福祉相談援助の基盤 ④精神保健福祉の理論と相談援助の展開 ⑤精神保健福祉に関する制度とサービス、精神障害者の生活支援システム ⑥人体の構造と機能及び疾病 ⑦心理学理論と心理的支援 ⑧社会理論と社会システム ⑨現代社会と福祉 ⑩地域福祉の理論と方法 ⑪福祉行財政と福祉計画 ⑫社会保障 ⑬障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ⑭低所得者に対する支援と生活保護制度 ⑮保健医療サービス ⑯権利擁護と成年後見制度

2 正答

【専門科目】

精神疾患とその治療

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正 答	4	3, 5	2	1, 5	5	3	2	1	1, 4	1

精神保健の課題と支援

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正 答	4	5	4	2	1	3	3	2	3	2

精神保健福祉相談援助の基盤

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正 答	1	2, 4	1, 3	1	3	4	5	1	5	5
問題番号	31	32	33	34	35					
正 答	3	4	3	4	2					

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題番号	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
正 答	5	2	5	1	5	4	2	1	2, 3	1, 2
問題番号	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
正 答	5	4	1	2	5	3	4	1	5	3
問題番号	56	57	58	59	60					
正 答	1, 4	3	4	3	5					

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題番号	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
正 答	3	2	2, 3	5	5	5	1	4	1	4	3	2

精神障害者の生活支援システム

問題番号	73	74	75	76	77	78	79	80
正 答	2	1	5	2	5	4	1	3

【社会福祉士・精神保健福祉士共通科目】

人体の構造と機能及び疾病

問題番号	1	2	3	4	5	6	7
正 答	5	4	5	3	1	2	1

心理学理論と心理的支援

問題番号	8	9	10	11	12	13	14
正 答	2	5	1	2	1	4	3

社会理論と社会システム

問題番号	15	16	17	18	19	20	21
正 答	3	1	2	4	2	4	5

現代社会と福祉

問題番号	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
正 答	1	4	3	3	4	5	4	1	2	2

地域福祉の理論と方法

問題番号	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
正 答	5	2	1	1	3	2, 4	3	1	4, 5	5

福祉行財政と福祉計画

問題番号	42	43	44	45	46	47	48
正 答	5	2	4	2	1	3	4

社会保障

問題番号	49	50	51	52	53	54	55
正 答	1	2	5	3	4	5	2

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

問題番号	56	57	58	59	60	61	62
正 答	3	4	1	5	3, 5	2	1

低所得者に対する支援と生活保護制度

問題番号	63	64	65	66	67	68	69
正 答	4	2	1	3	なし	4	5

保健医療サービス

問題番号	70	71	72	73	74	75	76
正 答	4	5	1	2	1	2, 3	4, 5

権利擁護と成年後見制度

問題番号	77	78	79	80	81	82	83
正 答	4	5	2	3, 5	1	4	3, 5

別紙 2

第 18 回精神保健福祉士国家試験における正答の取扱いについて

2 日目 午前（共通科目） 問題 67

問題 67 事例を読んで、生活保護を受けている H さんの現在の社会保険の適用について、正しいものを 1 つ選びなさい。

〔事例〕

H さん（58 歳，男性）は週当たり 40 時間労働の U 社の正社員であったが，持病が悪化し，U 社の業績不振もあり，週当たり 12 時間労働のパート社員となった。H さんは賃金が大幅に下がり，蓄えも底をつき現在は生活保護を受けている。なお，H さんを扶養する者はいない。

- 1 国民年金の第二号被保険者である。
- 2 市町村が行う国民健康保険の被保険者である。
- 3 介護保険の第二号被保険者とはならない。
- 4 雇用保険の被保険者である。
- 5 労働者災害補償保険の対象とはならない。

採点上の取扱い

全員に得点する。

理由

選択肢 1 については、第一号被保険者となるため、誤りである。

選択肢 2 については、生活保護法による保護を受けている世帯に属する者は、市町村が行う国民健康保険の被保険者とならないため、誤りである。

選択肢 3 については、退職時に本人の申出によって、健康保険法の任意継続被保険者となることや、その可能性を打ち消す記述が本事例文にないため、正しいとすることはできない。

選択肢 4 については、一週間の所定労働時間が 20 時間未満である者は、雇用保険法の適用を受けないため、誤りである。

選択肢 5 については、労働者災害補償保険は労働者に適用され、労働者は労働時間や生活保護法の適用関係とは無関係に決せられるため、誤りである。

したがって、正答となる選択肢がない。